

豊かな日本の生物多様性

2017年8月14日
国立科学博物館 他

わが国の生物種数は9万種以上、分類されていないものも含めると30万種を超えると推定されています。約38万Km²(世界の61番目の広さ)という狭い国土面積(陸域)であるが、南北に3000キロにもわたる島国で亜寒帯から亜熱帯まで幅広い気候帯があるため、豊かな生物多様性を有している。また、固有種の比率が高いことも特徴です。陸棲哺乳類、維管束植物の約4割、爬虫類の約6割、両生類の約8割が固有種。先進国で唯一野生のサルが生息していることをはじめ、クマやシカなど数多くの中・大型野生動物が生息する豊かな自然環境を有しています。

日本列島は世界の先端技術工場だけでなく、自然環境、生物の多様性の観点からも世界の一流レベルにあります。多品種の動植物(花、木、昆虫、鳥、サルなどの生き物)、魚、海藻類は歴史ある日本文化に多くの影響を与えています

事 項	イギリス		日 本		ニュージーランド	
	総種数	固有種数	総種数	固有種数	総種数	固有種数
植物(維管束)	1,623	160	5,300	1,800	2,089	1,654
魚類	315	0	3,850	419	1,010	110
鳥類	542	1	542	10	295	56
ほ乳類(海棲類除く)	42	0	107	48	3	3

※数字は、国立科学博物館展示資料より

日本と同じ島国で四季があり、比較的温暖な気候という類似点のあるイギリス、ニュージーランドと比較すると大きな違いがあります。**日本の植物の総種数は他国の倍以上あります。魚類に関しても日本が飛びぬけています。**

日本の生物多様性の贈り物としての日本食は、ある季節、ある地域のみにとれる多品種の新鮮な食材(野菜・果物・キノコ・海藻・魚貝類・肉など)を組み合わせて作る季節感あふれる料理で、食材の新鮮さ、見た目の美しさが命です。

このように日本の生物多様性は、日本の立地(極東の海洋国、亜寒帯から亜熱帯まで分布)によるところが大きい。国土が東西南北に長さ約3,000kmにわたって位置し、6852島で構成される島国、火山列島。日本列島の南には暖流が北上し、季節風の影響によるはっきりした四季の変化、海岸から山岳までの標高差や、大陸との接続・分断という地史的過程などに由来するほか、火山の噴火や急峻な河川の氾濫、台風などさまざまな攪乱によって、多様な生息・生育環境が作りだされてきたことによるものです。

日本の領海(基線から12海里・約22Km)は43万Km²、**EEZ排他的経済水域(基線から200海里・約370Km)は405万Km²、世界6位の広さを持ち**(米国、オーストラリア、インドネシア、ニュージーランド、カナダに次ぐ)、魚介類に恵まれています。今後は海底の天然資源が大いに期待されています。日本の海岸線の長さは世界一です。

国土の森林比率が極めて高く、自然環境に恵まれているのも日本の特色です。森林は全国土の67%を占めており、先進国では一位、豊かな自然があります。イギリス(森林比率12%)、アメリカ(33%)、ドイツ(30%)、フランス(24%)、中国(15%)などと比べ、圧倒的に大きな値となっています。

日本の降雨量は世界平均の2倍、欧州の・中国の3倍で水に恵まれた国です。

日本全土の川は35000本、古代からご先祖様が作りあげてきた**全国の水路網(飲料水・農業水・工業水)は40万Km**、地球10周分もあり、日本の国土を生きた大地にしています。アジアで水道水が飲めるのは日本のみ。米国・英国・フランス・イタリア・ロシア・中国などでは水道水は飲めません。

綺麗な空気、豊かな水は日本の自然環境、特に森林と人間の合作によりできたものです。

